

# L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X による修士論文発表会のアブストラクト作成ガイド<sup>†</sup>

指導教員: 指導教員名

学籍番号: 12345678 氏名: 著 者 名

## 1 はじめに

このアブストラクト作成ガイドは, 理工学研究科基礎理工学専攻修士課程に所属する院生が修士論文発表会のアブストラクトを L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X を用いて作成するためのものです ([1, 2]). この作成ガイドでは, アブストラクト作成のためのスタイルファイルに記述したコマンドについても解説しています. また, この作成ガイド自体も修士論文発表会のアブストラクトと同じ方法で作成されています. なお, アブストラクトは, 最大 2 ページ以内で記述することになります.

## 2 アブストラクト作成のための L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ファイルの構成

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ファイルは, 次の形式で作成します. 取りあえず, 各自が必要と考えられるコマンド行の先頭の % 記号を外し, タイトル, 学籍番号, 名前, 本文などを入力します. ただし, 上から順に指定した各コマンド行の入れ替えは行なわないようにしてください.

```
1: %----- start preamble -----
2: \documentclass[a4paper]{jarticle} % 10pt fonts, default fonts% または
3: %\documentclass[a4paper,11pt]{jarticle} % 11pt fonts % または
4: %\documentclass[a4paper,12pt]{jarticle} % 12pt fonts
5: %-----
6: \usepackage{masterabs} % 修士論文アブストラクトのスタイルファイル
7: %-----
8: % <<必要ならば, amslatex モードを指定する>>
9: %\usepackage{amsmath,amsthm,mathrsfs} % amslatex モードの指定
10: %\usepackage{amsfonts,amssymb,txfonts} % amsfonts の指定
11: %\usepackage{graphicx} % 図の挿入の指定 (\includegraphics など)
12: %-----
13: % \columnseprule = 0.4pt % two column の真ん中に縦線を引く
14: %----- 英文の場合: 参考文献 => References -----
15: % \renewcommand\refname{References} % 本文が英文の場合は % を取る
16: %-----
17: % <<必要ならば, ユーザのマクロ定義などをここに書く>>
18: %----- end preamble -----
21: \begin{document}
22: %----- two column -----
23: % \twocolumn[ % two column の場合は, 先頭の % を取る
24: %-----
25: % \no_tlfmark % タイトルの最後に footnote mark を付けない場合は, 先頭の % を取る
26: %-----
27: %%% アブストラクトのタイトルが 1 行の場合には, \title{タイトル}を使う
28: %%% タイトルが 2 行にわたるときは \2lttitle{1 行目}{2 行目}を使う
29: %-----
30: \title{タイトル <和文> } % 1 行用
31: %
32: %2lttitle{1 行目のタイトル<和文>}{2 行目のタイトル<和文>} % 2 行用
33: % 指導教員, 著者名など
34: \begin{preliminary}
35: \profnam{指導教員名} % (講師, 准教授, 教授) + 指導教員の名前
36: \name{12345678}{著 者 名} %% 学籍番号, 著者名
38: \end{preliminary}
39: %----- two column -----
```

---

<sup>†</sup> Guide to Typeset Your Extended Abstract of Master Thesis in L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X

```

40: % ]% two column の場合は , 先頭の % を取る
41: %-----
42: %----- footnote に英文のタイトルを記述したいとき -----
43: \etitle{タイトル<英文>}
44: %-----
45: \init_fnmark % 脚注マークの初期化 (アラビア数字に変更)
46:
47: %%%%%%%%%%%%%%% 本文 %%%%%%%%%%%%%%%
48: \section{第 1 節の標題}
49:
50: \section{第 2 節の標題}
51: ... ..
52:
53: %%%%%%%%%%%%%%% 参考文献 %%%%%%%%%%%%%%%
54: % <文献データベースを指定して記述してもよい
55: %-----
56: \begin{thebibliography}{99}
57: \bibitem{<文献参照キーワード>}文献 1.
58: \bibitem{<文献参照キーワード>}文献 2.
59:
60: \end{thebibliography}
61: \end{document}

```

### 3 文章の記述における注意点

#### 3.1 句読点

句点には全角の「。」, 読点には全角の「,」を用いる。ただし, 英文中や数式中で「.」や「,」を使う場合には, 半角文字を使います。「。」や「,」はできるだけ使用しないでください。

#### 3.2 全角文字と半角文字

全角文字と半角文字の両方にある文字は, 次のように使い分ける。

1. 括弧は全角の「(」と「)」を用います。ただし, 図表見出し, 書誌データでは, 半角の「(」と「)」を用います。
2. 英数字, 空白, 記号類は半角文字を用います。
3. カタカナは全角文字を用います。
4. 引用符では開きと閉じを区別します。開きには ‘ ‘ ( “ ) を用い, 閉じには ’ ’ ( ” ) を用います。

#### 3.3 数式

互いに関連する別組の数式が 2 行以上連続して現れる場合には, 数式の縦揃えを行なう `eqnarray` 環境や `eqnarray*` 環境 (数式番号を付けない) を利用しても良いですが, 縦揃した記号の前後の空白を制御した `Eqnarray` および `Eqnarray*` (数式番号を付けない) 環境を使うこともできます。

$f(x) = \sqrt{1-x^2-y}$	(1)	$f(x) = \sqrt{1-x^2-y}$	(1)
$g(x) = a + b - c$	(2)	$g(x) = a + b - c$	(2)

1:\begin{eqnarray}	1:\begin{Eqnarray}
2: f(x) &=& \sqrt{1-x^2-y} \\\	2: f(x) &=& \sqrt{1-x^2-y} \\\
3: g(x) &=& a + b - c	3: g(x) &=& a + b - c
4:\end{eqnarray}	4:\end{Eqnarray}

#### 参考文献

- [1] L. Lamport, “*L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X: A Document Preparation System*,” Addison-Wesley Professional; 2nd Edition, July 10, 1994.
- [2] F. Mittelbach, et al., “*L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X Companion*,” Addison-Wesley Professional; 2nd edition, May 2, 2004.

```

1 %%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%
2 %%%%%%%%% Example: extended abstract for master thesis
3 %%%%%%%%% version 1.0
4 %%%%%%%%% file name: sample.tex
5 %%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%%
6 %----- start preamble -----
7 \documentclass[a4paper]{jarticle} % 10pt fonts, default fonts
8 %\documentclass[a4paper,11pt]{jarticle} % 11pt fonts
9 %\documentclass[a4paper,12pt]{jarticle} % 12pt fonts
10 %-----
11 \usepackage{masterabs} % 修士論文アブストラクトのスタイルファイル
12 %-----
13 %\usepackage{amsmath,amsthm,mathrsfs} % amslatex モードの指定
14 %\usepackage{amsfonts,amssymb,txfonts} % amsfonts の指定
15 %\usepackage{graphicx} % 図の挿入の指定 (\includegraphics など)
16 %-----
17 % \columnseprule = 0.4pt % two column の真ん中に縦線を引く
18 %----- 英文の場合: 表, 図, 参考文献を英語に変更 -----
19 % \initenglish % 本文が英文の場合は % を取る (表=>Tab., 図=>Fig. など)
20 %-----
21 %
22
23
24 %----- end preamble -----
25 %
26 %%%%%%%%% TEXT START %%%%%%%%%
27
28 \begin{document}
29 %
30 %----- two column -----
31 % \twocolumn[ % two column の場合は, 先頭の % を取る
32 %-----
33 %
34 %-----
35 % \no_tlfmark % タイトルの最後に footnote mark を付けない場合は, 先頭の % を取る
36 %-----
37 %% タイトルが 1 行 \title{タイトル}を使う
38 %% タイトルが 2 行にわたるときは \2ltitle{1 行目}{2 行目}を使う
39 %-----
40 %
41 \title{\LaTeX{}による修士論文発表会のアブストラクト作成
42 ガイド} % 1 行用
43 %
44 %2ltitle{1 行目のタイトル}{2 行目のタイトル} % 2 行用
45 %
46 %-----
47 % 日本語指導教員, 著者名など
48 %-----
49 \begin{preliminary}
50 \profname{指導教員名} %% (講師, 准教授, 教授) + 指導教員の名前
51 \name{12345678}{著 者 名} %% 学籍番号, 著者名
52 \end{preliminary}
53 %
54 %----- two column -----
55 % ]% two column の場合は, 先頭の % を取る
56 %-----
57 %
58 %----- footnote に英文のタイトルを記述したいとき -----
59 \etitle{Guide to Typeset Your Extended Abstract of Master Thesis in \LaTeX}
60 %-----
61 %
62 \init_fnmark % 脚注マークの初期化 (アラビア数字に変更)
63

```

```

64 %%%%%%%%%%%%%%% 本文 %%%%%%%%%%%%%%%
65
66 \section{はじめに}
67 このアブストラクト作成ガイドは，理工学研究科基礎理工学専攻修士課程に所属する
68 院生が修士論文発表会のアブストラクトを\LaTeX{}を用いて作成するためのもの
69 です (\cite{lamport94,mittelbach04})．この作成ガイドでは，アブストラクト作成
70 のためのスタイルファイルに記述したコマンドについても解説しています．また，
71 この作成ガイド自体も修士論文発表会のアブストラクトと同じ方法で作成されて
72 います．なお，アブストラクトは，最大2ページ以内で記述することになります．
73
74 \section{アブストラクト作成のための\LaTeX{}ファイルの構成}
75 \LaTeX{}ファイルは，次の形式で作成します．取りあえず，各自が必要と考えられる
76 コマンド行の先頭の\verb!%!記号を外し，タイトル，学籍番号，名前，本文などを
77 入力します．ただし，上から順に指定した各コマンド行の入れ替えは行なわない
78 ようにしてください．
79
80 {\small
81 \begin{verbatim}
82 1: %----- start preamble -----
83 2: \documentclass[a4paper]{jarticle} % 10pt fonts, default fonts% または
84 3: %\documentclass[a4paper,11pt]{jarticle} % 11pt fonts % または
85 4: %\documentclass[a4paper,12pt]{jarticle} % 12pt fonts
86 5: %-----
87 6: \usepackage{masterabs} % 修士論文アブストラクトのスタイルファイル
88 7: %-----
89 8: % <<必要ならば，amslatex モードを指定する>>
90 9: %\usepackage{amsmath,amsthm,mathrsfs} % amslatex モードの指定
91 10: %\usepackage{amssymb,txfonts} % amssymb の指定
92 11: %\usepackage{graphicx} % 図の挿入の指定 (\includegraphics など)
93 12: %-----
94 13: % \columnseprule = 0.4pt % two column の真ん中に縦線を引く
95 14: %----- 英文の場合: 参考文献 = > References -----
96 15: % \renewcommand\refname{References} % 本文が英文の場合は % を取る
97 16: %-----
98 17: % <<必要ならば，ユーザのマクロ定義などをここに書く>>
99 18: %----- end preamble -----
100 21: \begin{document}
101 22: %----- two column -----
102 23: % \twocolumn[ % two column の場合は，先頭の % を取る
103 24: %-----
104 25: % \no_tlfmark % タイトルの最後に footnote mark を付けない場合は，先頭の % を取る
105 26: %-----
106 27: %% アブストラクトのタイトルが 1 行の場合には，\title{タイトル}を使う
107 28: %% タイトルが 2 行にわたるときは \2title{1 行目}{2 行目}を使う
108 29: %-----
109 30: \title{タイトル <和文> } % 1 行用
110 31: %
111 32: %2title{1 行目のタイトル<和文>}{2 行目のタイトル<和文>} % 2 行用
112 33: % 指導教員，著者名など
113 34: \begin{preliminary}
114 35: \profnam{指導教員名} %% (講師，准教授，教授) + 指導教員の名前
115 36: \name{12345678}{著 者 名} %% 学籍番号，著者名
116 38: \end{preliminary}
117 39: %----- two column -----
118 40: % ]% two column の場合は，先頭の % を取る
119 41: %-----
120 42: %----- footnote に英文のタイトルを記述したいとき -----
121 43: \etitle{タイトル<英文>}
122 44: %-----
123 45: \init_fnmark % 脚注マークの初期化 (アラビア数字に変更)
124 46:
125 47: %%%%%%%%%%%%%%% 本文 %%%%%%%%%%%%%%%
126 48: \section{第 1 節の標題}

```

```

127 49:
128 50: \section{第 2 節の標題}
129 51: ... ..
130 52:
131 53: %%%%%%%%%% 参考文献 %%%%%%%%%%
132 54: % <文献データベースを指定して記述してもよい
133 55: %-----
134 56: \begin{thebibliography}{99}
135 57: \bibitem{<文献参照キーワード>}文献 1.
136 58: \bibitem{<文献参照キーワード>}文献 2.
137 59:
138 60: \end{thebibliography}
139 61: \end{document}
140 \end{verbatim}
141 }
142
143 \section{文章の記述における注意点}
144 \subsection{句読点}
145 句点には全角の「。」, 読点には全角の「、」を用いる。ただし, 英文中や数式
146 中で「.」や「,」を使う場合には, 半角文字を使います「.」や「,」はできる
147 だけ使用しないでください。
148
149
150 \subsection{全角文字と半角文字}
151 全角文字と半角文字の両方にある文字は, 次のように使い分ける。
152 \begin{enumerate}\itemsep=-3pt
153 \item 括弧は全角の「(」と「)」を用います。ただし, 図表見出し, 書誌
154 データでは, 半角の「(」と「)」を用います。
155 \item 英数字, 空白, 記号類は半角文字を用います。
156 \item カタカナは全角文字を用います。
157 \item 引用符では開きと閉じを区別します。開きには \verb!“!(““を用い,
158 閉じには \verb!“”(“”)を用います。
159 \end{enumerate}
160
161 \subsection{数式}
162 互いに関連する別組の数式が 2 行以上連続して現れる場合には, 数式の縦揃えを行なう
163 \verb!eqnarray!環境や\verb!eqnarray*!環境(数式番号を付けない)
164 を利用しても良いですが, 縦揃した記号の前後の空白を制御した\verb!Eqnarray!
165 および\verb!Eqnarray*!(数式番号を付けない)環境を使うこともできます。
166 \begin{center}
167 \begin{tabular}{c|c}
168 \begin{minipage}[t]{0.45\textwidth}
169 \vspace{-0.5cm}
170 \begin{eqnarray}
171 f(x) &= & \sqrt{1-x^2-y} \quad \backslash\backslash
172 g(x) &= & a + b -c
173 \end{eqnarray}
174 \begin{verbatim}
175 1:\begin{eqnarray}
176 2: f(x) &= & \sqrt{1-x^2-y} \quad \backslash\backslash
177 3: g(x) &= & a + b -c
178 4:\end{eqnarray}
179 \end{verbatim}
180 \end{minipage} &
181 \begin{minipage}[t]{0.45\textwidth}
182 \vspace{-0.5cm}
183 \setcounter{equation}{0}
184 \begin{Eqnarray}
185 f(x) &= & \sqrt{1-x^2-y} \quad \backslash\backslash
186 g(x) &= & a + b - c
187 \end{Eqnarray}
188 \begin{verbatim}
189 1:\begin{Eqnarray}

```

```

190 2: f(x) &= \sqrt{1-x^2-y} \\
191 3: g(x) &= a + b - c
192 4:\end{Eqnarray}
193 \end{verbatim}
194 \end{minipage}
195 \end{tabular}
196 \end{center}
197
198 %%%%%% 参考文献の記述 %%%%%%%
199 \begin{thebibliography}{99}
200 \bibitem{lamport94}L.~Lamport, ‘‘\LaTeX{}: A Document Preparation System,’’
201 Addison-Wesley Professional; 2nd Edition, July 10, 1994.
202 \bibitem{mittelbach04}F.~Mittelbach, et al., ‘‘\LaTeX{} Companion,’’
203 Addison-Wesley Professional; 2nd edition, May 2, 2004.
204 \end{thebibliography}
205
206 \end{document}
207

```